



さかもと
坂本
りょうま
龍馬

土佐の町人郷士ちようじんごうし（商人で名字帯刀みょうじたいとうを許されている下級武士）の次男として、高知城下に生まれた坂本龍馬は、幼いころは「泣き虫・鼻たれ・夜ばれたれ（寝小便たれ）」といわれた子でした。それを男まさりの姉乙女おとめが鍛えてきた、学問のほうはまだでしたが、武芸ぶげいはめきめき上達したのです。

学問も、やがて河田小龍かわだしよりゅうや勝海舟かつかいしゅうとの機縁きえんを得て、ゆつくりと目が開かれていきます。今の世にも、いわゆるいじめられっ子・弱虫・泣き虫の子どもはたくさんいますが、なにも心配することはありません。時がくれば、縁に出会えば、かえってたくましく成長するのです。

泣き虫や劣等生れつとうせいだった者が、自分の弱点を克服して大人になる、このほうがむしろすばらしいではありませんか。いじめられて、くやしくて泣いた経験の持ち

主が、一度も挫折^{ざせつ}を味わったことのない秀才よりも、うんと幅のある、奥の深い人間になるといえましょう。

泣き虫龍馬は、大人になつて驚くべき多面性^{ためんせい}を発揮しました。剣道では北辰一^{ほくしんいつ}刀流^{とうりゅう}の達人。政治家としては薩摩と長州^{さつま ちようしゅう}の連合を成立させ、大政奉還^{たいせいほうかん}（幕府が政權を天皇にお返しすること）の原動力となります。

経済人・軍人としては、亀山社中^{かめやましゃちゅう}や海援隊^{かいえんたい}をつくり、そのリーダーとなる。近代商社や日本海軍の祖^そといわれるのはこのためです。

京都の東山に、龍馬や木戸孝允^{きどたかよし}をはじめとする、たくさん^{きんのう}の勤皇の志士たちのお墓^{りようぜんぼち}が並ぶ霊山墓地^{りようぜんぼち}があります。清水寺^{きよみずでら}から、三年坂・二年坂を経て、霊山歴史館へ歩く、このあたりは「維新^{いしん}の道」と呼ばれています。

歴史館では、維新の志士たちのことを学ぶことができます。その向かいに京都護国神社があり、境内^{けいだい}から右手の山に登ると、龍馬と中岡慎太郎^{なかおかしんたろう}（龍馬と一緒に暗殺された土佐の志士・陸援隊長^{りくえんたいちよう}）の墓が並んでいます。二人には今も若いフア

ンが多く、おまいりの人がそなえたお花や線香の煙がたえません。

龍馬の志士としての活動はわずか五年。薩摩と長州——その代表者西郷隆盛さいごうたかもり

と木戸孝允——の手を結ばせるという、維新の一番たいせつな仕事だけをやって、テロにたおれ、あつという間に歴史の舞台を去った人であります。

京都伏見ふしみの寺田屋てらだやで幕府の役人におそわれ、龍馬は負傷したことがあり、その傷の治療に、西郷のすすめで、新妻おりようと出かけた霧島温泉きりしまの旅は、日本最初の新婚旅行といわれています。

西に東にいつもあわただしく走り回っていた龍馬にとって、それは心身ともにくつろいだ日々だったのでしょう。かれには珍しく和歌をよんでいます。

「心から のどけくもあるか 野辺のべはなお 雪げながらの 春風ぞ吹く」

日露戦争にちろが始まったとき、昭憲皇后しょうけんこうごうは龍馬の夢を御覧になりました。龍馬は必ず海軍をお守りしますから、御心配なさいますなと申し上げました。

日本海大海戦にほんかいだいかいせんで、東郷平八郎司令長官とうごうへいはちろうひきいるわが連合艦隊れんごうかんたいは、ロシアのバル

チック艦隊に大勝利をおさめます。昭和三年、龍馬の銅像が高知の桂浜かつらはまに建てられ、日本海大海戦の記念日五月二十七日に除幕式がおこなわれました。龍馬は死んだのちまでも、海軍の祖として日本を守ったというわけです。

慶応三年（一八六七）三十三歳没

○ くやしくて泣いた経験の持ち主が、一度も挫折を味わったことのない秀才よりもうんと幅のある、奥の深い人間になる。

安心をしました。涙が人物をつくるのですね。

○ 龍馬は明治維新の花形。今の時代にも龍馬のような人物の出現が望まれる。私は龍馬のようになれなくても、志士の気持ちをもち続けます。

（M生）